

令和4年度 「障害者スポーツ推進プロジェクト (特別支援学校を対象とした全国大会の実施事業)」

成果報告書



背景

- ・ Virtus（国際知的障がい者スポーツ連盟）は、2019 年に行われた国際大会において初めてダウン症クラス（II-2）を導入
- ・ 2021年10月、国内初の「全国ダウン症アスリート記録会」を宮崎県で実施
- ・ ダウン症をはじめ知的障がいのある人が参加できる大会は少なく、今後も継続して開催することが重要 ※課題→継続開催のための予算・人員確保、一般競技団体との連携体制の構築等

目的

- ・ 障がい者スポーツへの理解と関心を高めると共に陸上競技の幅広い普及を図る。
→既存の健常者の陸上競技大会と合同で開催することにより、**地域陸協との連携モデルの構築を図る。**

事業内容

- ① 実行委員会（一般の競技団体、障がい者スポーツ関係団体、大学との連携）
- ② 「全国ダウン症アスリート記録会」
- ③ 「全国特別支援学校IDオンライン記録会」 体力テストの部・チャレンジの部

①実行委員会の開催

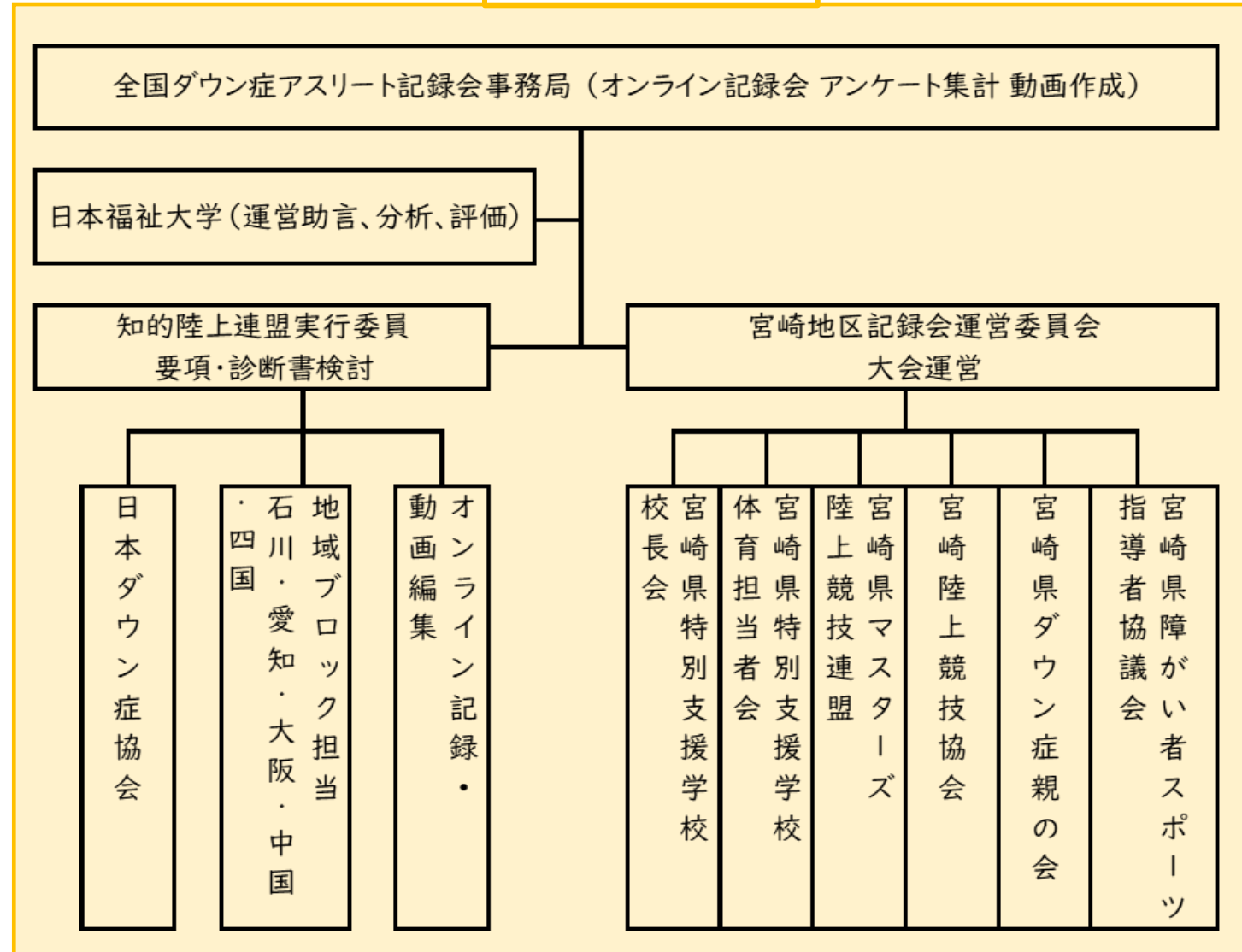
・日本知的障がい者陸上競技連盟が主体となり、開催県（宮崎陸上協会等）、日本ダウン症協会、大学で実行委員会を設置。

・本記録会は、一般の記録会「宮崎マスタース陸上競技記録会」「宮崎県チャレンジアスリート記録会」と合同で開催。

<主な内容>

- ・役割の明確化
- ・ダウン症に関する勉強会
- ・ダウン症の運動プログラム紹介
- ・SNS等による情報発信

事業の実施体制



② 「全国ダウン症アスリート記録会」

期日：2022年10月2日（日）

場所：ひなた陸上競技場

参加種目：

【公式の部】 100m 200m 400m
走幅跳 やり投

【オープン】 60m 1500m競歩
ジャベリックスロー
(交流を目的としたリレーも実施)



記録会 表彰式



パラスポーツ体験会



特別支援学校等に配布したチラシ

	男子	女子
小学生	7名	4名
中学生	12名	2名
高校生	5名	0名
一般	5名	1名

計36名

九州11校
近畿1校
中部/東海2校
関東2校

その他、記録会前日に陸上教室、当日に一般の方への障がい理解等を目的とした「パラスポーツ体験会」を実施。また、当日はパラリンピック出場選手も参加し、会場を盛り上げた。

③ 「全国特別支援学校IDオンライン記録会」

募集期間：

2022年9月1日～2022年10月17日

参加種目：

体力テストの部

50m 立幅跳 ソフトボール投げ

チャレンジの部

100m 200m 400m 1500m 砲丸投 走幅跳

参加人数内訳

ダウン症

50m	ソフト・ハンド ボール投	立ち幅跳	延べ総数
13	14	11	38

地域ブロック別エントリー内訳

九州	5校	中国・四国	5校
近畿	5校	中部・東海	2校
北信越	3校	関東	12校
東北・北海道	11校		
		総数	43校

体力テストの部

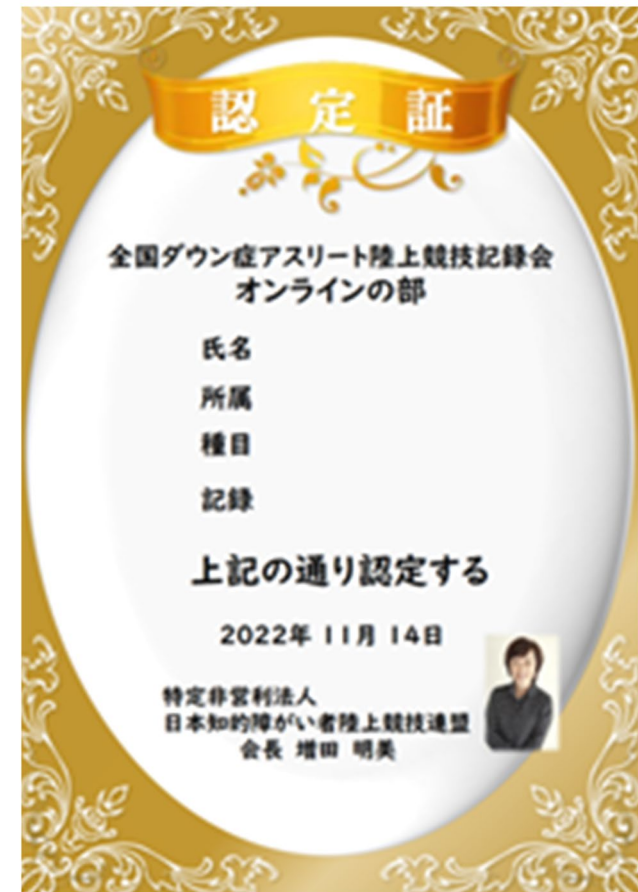
50m	立幅跳	ソフトボール投	延べ人数
504	478	248	1,230

チャレンジの部

高体連大会	全スポ地域予選	地域陸協大会	延べ人数
50	62	26	195
種目 1	種目 2	特体連	総数
10	3	44	1,463



オンラインの部 表彰式



オンラインの部「認定証」

2022年度は、高校生を対象とし、エントリーのあった上位5校に対しオンラインで表彰を実施した。

成果①（アンケート結果）

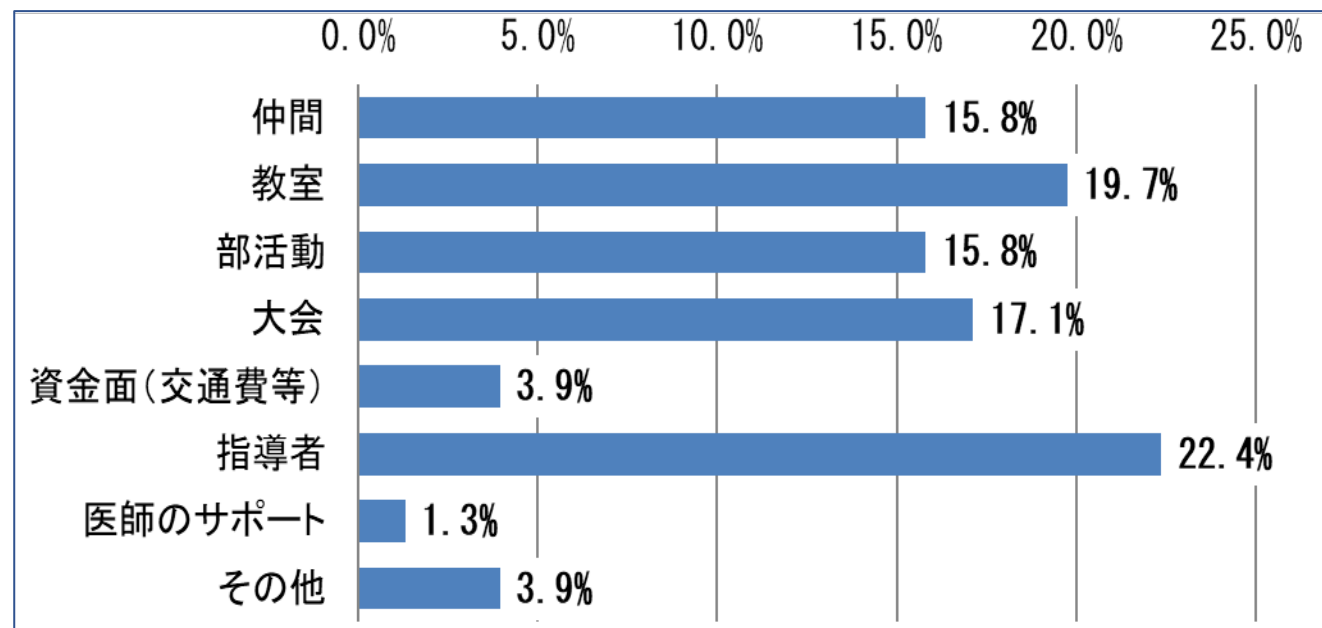
- 記録会の参加者30名のうち26名（記入者は保護者）がアンケートに回答した。
- 参加者全員が参加して良かったと回答した。記録会をどのように知ったかについて尋ねたところ（複数回答可）、特別支援学校関係者から（56.3%）が最も多く、次いでホームページをみて（21.4%）であった。
- 今後知りたい陸上競技の情報は、障がい者の陸上教室、国内大会、世界大会の順に多かった。
- スポーツ機会を増やすために必要なことについて伺ったところ（複数回答可）、指導者（22.4%）が最も多く、次いで教室（19.7%）、大会（17.1%）であった（表1）。

参加者の感想（自由記述）

- 大会開催に感謝している（7件）
- 継続開催してほしい（2件）
- 昨年度より参加者も増えて盛り上がりを感じた（2件）
- 運営も昨年より円滑だった（2件）
- 初めての参加だったが満足している（2件）
- 県の障害者スポーツ大会や国スポ障スポの陸上の部でのダウン症の部をぜひ設けてほしい
- 参加者が増えるともっと活気が出ると思う
- 地域でもダウン症の人が参加できる大会があれば良いと思う

（表1）

ダウン症のある人のスポーツ参加機会を増やすためには何が必要だと思いますか



n=26（複数回答可）

成果②

【参加者数の増加】

ダウン症記録会 2021年度 30名 → 2022年度 36名
オンライン記録会 2021年度 50名（ダウン症のみ）
→ 2022年度 1,463名

【予算確保】

スポンサー10社、合同開催による使用料等の削減

【人員確保】

合同開催による人員確保（審判員・運営員）

【連携体制の構築】

2回目の開催により一般の陸上競技団体（宮崎県陸上競技協会等）、地元の障がい者関係団体との連携が図られ、審判・運営スタッフの障がい理解が進んだ。



一般の競技団体との合同開催は、**メリット**（費用削減や審判・運営スタッフの確保）**が大きい**が**継続**して行うこと、**障がい理解を図る機会を設ける**こと等が重要。両者を繋ぐ**コーディネーター人材**も必要。



特定非営利活動法人
日本知的障がい者陸上競技連盟
Japan Intellectual Disability Athletics Federations



特定非営利活動法人 日本知的障がい者陸上競技連盟

※2023年4月より日本パラ陸上競技連盟と統合します

担当者 奥松 美恵子

連絡先 : jidaf.jimukyoku@yd6.so-net.ne.jp